

令和6年度 学校評価における自己評価結果について

【本年度の重点目標】(校長より)

- 1 創造型実践技術者の育成
- 2 常に「カイゼン」を意識した校務への取組
- 3 生徒の状況に応じた教育活動の充実
- 4 地域と連携・協働した教育活動の推進
- 5 進路指導の充実

1 創造型実践技術者の育成

部・科・学年	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	結果	評価	次年度に向けての課題
学習指導部	主体的・対話的な学びの実現を図る	生徒が授業に取り組む姿勢	授業中、主体的および対話的に学んでいる生徒の割合(教員へのアンケート調査、2学期末)	A: 85%以上	なし	肯定的な回答が、78.3%であった。昨年度より2.0%ほど低下した。	B	科・教科・授業形態による授業態度の差が大きい。座学の重要性を伝えるとともに、指導方法の工夫を図りたい。
				B: 75%以上				
				C: 65%以上				
				D: 65%未満				
特活指導部	学校組織を意識した行事運営	生徒会役員がリーダーシップを発揮して行事運営ができたか	リーダーシップを発揮したと実感できた生徒の割合(各行事の振り返りアンケートより評価、2学期末)	A: 85%以上	なし	アンケートの結果、「発揮し活動することができた」「おおむね発揮し活動することができた」の回答が82%であった。	B	生徒会役員全員に在籍中1回以上は各行事における係のまとめ役を務めさせ、リーダーシップが育むように指導を行う。
				B: 75%以上				
				C: 60%以上				
				D: 60%未満				
工業管理部	ものづくりを通して課題解決力の向上と、社会が求める人材の育成	各種資格試験やコンテスト等への積極的参加	各種資格試験やコンテスト等の参加者数の合計(評価:全科在籍者数に対する参加者数の割合、2学期末)	A: 70%以上	なし	各科において、積極的に資格試験やコンテスト等への参加を促した結果、70%以上の参加者数を出した。	A	今後は、さらに高度な資格試験やコンテスト等に挑戦する生徒を指導していきたい。
				B: 50%以上				
				C: 30%以上				
				D: 30%未満				
機械科	社会を支える産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力の育成	各種資格試験やコンテスト等への積極的参加	各種資格試験やコンテスト等の参加者数の合計(評価:機械科在籍者数に対する参加者数の割合、2学期末)	A: 80%以上	なし	機械科3学年の生徒数が118名に対し、各種コンテストや資格試験への参加者数が123名となり、目標値80%を大きく上回るようになった。	A	受験料や合格率、授業時数を考え、1学年での危険物取扱者試験の全員受験をやめ、希望者のみの受験とした。
				B: 60%以上				
				C: 50%以上				
				D: 50%未満				
生産機械科	科学的根拠に基づき創造的に解決することができる技術者の育成	各種資格試験やコンテスト等への積極的参加	各種資格試験やコンテスト等の参加者数の合計(評価:生産機械科在籍者数に対する参加者数の割合、2学期末)	A: 70%以上	なし	科在籍者数に対する各種コンテストや資格試験への参加者数の割合が80%以上であった。	A	受験料の引き上げ、合格率、働き方改革の折り合いを検討し、危険物取扱者試験を任意受験とした。
				B: 60%以上				
				C: 50%以上				
				D: 50%未満				
建設科	生徒に必要な技術・技能を習得させる。自己啓発の一環として資格試験等に挑戦させる	各種資格試験やコンテスト等の参加者数の割合	各種資格試験やコンテスト等の参加者数の合計(評価:建設科在籍者数に対する参加者数の割合、2学期末)	A: 90%以上	なし	各学年でクラス全員が取り組める資格を設定し、挑戦させた。その結果、割合が70%以上であった。	B	今後は、短期間に集中して資格試験等に取り組めるように指導を改善し、さらに教員間で連携して取り組みたい。
				B: 70%以上				
				C: 50%以上				
				D: 50%未満				

部・科・学年	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	結果	評価	次年度に向けての課題
電子科	資格試験合格のため適切な支援・指導を行う	学習の支援・指導と課題による家庭学習の習慣化	各種資格試験の合格率(2学期末)	A: 75%以上 B: 70%以上 C: 65%以上 D: 65%未満	なし	全員受験の資格を設定して挑戦させた結果、割合が75%以上であった。	A	今後とも補習や宿題などで学習の習慣化に努めるとともに教員間で連携して指導する。
3学年	自己の目標に向けての専門的な知識・技能の向上	自己の目標に向けて、専門的な知識・技能の向上ができたかをアンケートにより評価	各自が設定した目標に対する実現度(2学期末) 【評価: 目標達成者数の割合】	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	なし	アンケートの結果、87%の生徒が達成できていると答えた。	A	A評価は得られたが、サポートが特に必要な生徒には、定期的に目標を確認させ、達成に向けての支援をより手厚くしていく必要があると感じた。
2学年	自己の目標に向けての専門的な知識・技能の向上	自己の目標に向けて、専門的な知識・技能の向上ができたかをアンケートにより評価	各自が設定した目標に対する実現度(2学期末) 【評価: 目標達成者数の割合】	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	なし	アンケートの結果、71%の生徒が達成できた、達成できていると答えた。	B	学校行事が多く慌ただしい学年ではあったが、ある程度の生徒が目標を達成できた。次年度の進路実現に向け、物事に対し、主体的に取り組むことができるように、継続指導を行っていきたい。
1学年	自己の目標に向けての専門的な知識・技能の向上	自己の目標に向けて、専門的な知識・技能の向上ができたかをアンケートにより評価	各自が設定した目標に対する実現度(2学期末) 【評価: 目標達成者数の割合】	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	なし	アンケートの結果、68.3%の生徒が達成できた、達成できていると答えた。	C	普通教科、専門教科や受験する資格の難易度も上がるので、意欲的に取り組む力が身に付くように、指導を行っていく。

2 常に「カイゼン」を意識した校務への取組

部・科・学年	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	結果	評価	次年度に向けての課題
教務部	各係において、主担当者が中心となり業務カイゼンを図るとともに、長期的な視点で継続的に業務が行える環境を整える。	各係で継続的に業務が行える環境を整え、実践できた業務や内容の効果的なカイゼン数	環境を整えた中で、年間に実践できた業務カイゼン数で評価(2学期末)	A: 5つ以上のカイゼン B: 3つ以上のカイゼン C: 2つ以上のカイゼン D: 1つ以下のカイゼン	なし	多くの各係の業務において、複数で臨むように意識し、日常より取り組んだ。会議資料のペーパーレス化、保護者向けの授業見学会の実施、リモートでの行事運営の効率化など、多岐に渡り、5つ以上の改善を図れた。	A	今後も各先生や時に生徒からの意見も積極的に取り入れ、検証し、効率的、かつ効果的なよりよい学校運営を目指していきたい。
学習指導部	学習評価の基準や方法を研究・カイゼンする	学習評価の基準や方法を研究・カイゼンしているか	学習評価の基準や方法の改善状況(教員へのアンケート調査、2学期末)	A: 肯定的な回答が90%以上 B: 肯定的な回答が80%以上 C: 肯定的な回答が65%以上 D: 肯定的な回答が65%未満	なし	肯定的な回答が、91.1%であった。昨年度より2.5%向上し、研究・カイゼンが進んでいる。	A	観点別評価が4年目になるので、よりカイゼンが深まるよう働きかけたい。
特活指導部	充実できる生徒会活動を意識したカイゼン	生徒会活動のカイゼン数	年間のカイゼン数で評価(2学期末)	A: 3つカイゼンできた B: 2つカイゼンできた C: 1つカイゼンできた D: カイゼン数0	なし	学校公開の企画運営方法・壮行会実施基準・球技大会の種目等3つ以上の改善を図ることができた。	A	各先生や生徒からの改善意見を取り入れ、充実した生徒会活動とする。
健康安全指導部	業務や内容の効果的なカイゼン	各係における業務や内容の効果的なカイゼン数	年間の業務カイゼン数で評価(2学期末)	A: 3つカイゼンできた B: 2つカイゼンできた C: 1つカイゼンできた D: カイゼン数0	なし	ワックスがけのモップ洗浄を廃止し、使い捨て雑巾に変えたことで時間内に業務を完了することができた。各種健康診断の実施方法について検討することができた。	B	健康診断が円滑に実施できるよう検討していく。

部・科・学年	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	結果	評価	次年度に向けての課題
生徒指導部	ルールや業務内容の確認とカイゼンを進める	各係においてルールや業務内容の確認を行い、必要に応じてカイゼン、職員への周知、説明をしているか	ルールや業務内容の確認・カイゼン数で評価(2学期末)	A: 4つ以上の確認・カイゼン B: 3つ以上の確認・カイゼン C: 2つ以上の確認・カイゼン D: 1つ以上の確認・カイゼン	なし	①アルバイト許可を出し、指導する流れにした。②アルバイト許可の内規をシンプルな文言に変更。③バイク通学許可生徒に対して、バイク点検、服装・交通マナー指導を密に行った。	B	服装や頭髪についての統一した基準と共通理解が必要との声が多い。係・部として対応していきたい。
進路指導部	進路指導室の部屋環境カイゼン	進路の手引きの内容や、進路室資料の掲示方法をカイゼンする	年間のカイゼン実施数で評価(2学期末)	A: 3つ以上のカイゼン B: 2つ以上のカイゼン C: 1つ以上のカイゼン D: カイゼン数0	なし	生徒用プリンターを更新し生徒の利用が増加した。進路室の机を増やし進路学習が増えた。	B	今後も進路指導室の利用や、進路の手引きの活用につながるようカイゼンしていきたい。
渉外部	業務や内容の効果的なカイゼン	各係で分担を明確にさせた業務のカイゼン数	年間の業務カイゼン数で評価(2学期末)	A: 3つ以上のカイゼン B: 2つ以上のカイゼン C: 1つ以上のカイゼン D: カイゼン数0	なし	学校公開のPTA催事について内容や運営方法などを多岐に渡り時間をかけて検討するなど3つ以上カイゼンした。	A	次年度も役員・理事を中心に保護者と連携しながらカイゼンに取り組みたい。
工業管理部	各科の特長を活かしたカイゼン	各科の特長を活かし校内施設のカイゼンを行う	年間のカイゼン実施数で評価(2学期末)	A: 5つ以上のカイゼン B: 3つ以上のカイゼン C: 1つ以上のカイゼン D: カイゼン数0	なし	生徒からのカイゼン提案を实践する取り組みを3つ以上行った。	B	次年度も、生徒からのカイゼン提案に対して、各科の特長を活かして取り組んでいく。
情報管理部	校務・教務支援システム等の運用とセキュリティの「カイゼン」	システム等の運用とセキュリティのカイゼン数	年間のカイゼン実施数で評価(2学期末)	A: 3つ以上のカイゼン B: 2つ以上のカイゼン C: 1つ以上のカイゼン D: カイゼン数0	なし	停電やトークンの変更・使用方法などのカイゼンやさまざまな状況での対応についてのカイゼンを行った。	B	引き続き仕様変更などに直ぐに対応して連絡を密にする。
機械科	安全教育の充実と設備の改善	安全に実習を行うための安全教育の実践と設備状況	安全作業が行えるように設備点検と、取扱いにおける安全教育に取り組む(2学期末)	A: 実践された B: ある程度実践された C: あまり実践されなかった D: ほとんど実践されなかった	なし	実習等での事故やけがにつながるような設備の不良を起こさなかった。	A	事故やけがには至っていないが、設備の故障は起きており、教員一人ひとりが異常に気付けるような用心深さを持っていきたい。
生産機械科	安全に作業するための環境改善と安全教育の充実	事故を未然に防止する安全教育の実践と安全に配慮した工場内の整理・整頓状況	安全作業が行えるように工場内の整理・整頓と、取扱いにおける安全教育に取り組む(2学期末)	A: 実践された B: ある程度実践された C: あまり実践されなかった D: ほとんど実践されなかった	なし	工場内の整理・整頓と、取扱いにおける安全教育に取り組むことができた。	A	次年度も引き続き実習室の整理整頓を行うことで、安全第一を目指していきたい。
建設科	常に「カイゼン」を意識した校務への取組	実習室等の5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)活動の状況	安全で効率的に作業が行えるように実習室等の環境づくりやルールづくりがされているか点検をし、カイゼンに取り組む(2学期末)	A: 実践された B: ある程度実践された C: あまり実践されなかった D: ほとんど実践されなかった	なし	実習室の整理整頓し、不要な物を処分し、安全な作業空間を確保した。	B	さらに不要な物を処分し、実習室の有効なスペースを広くし、今後も維持管理したい。
電子科	作業環境の「カイゼン」を意識した取組	実習室等の5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)活動の状況	安全第一の実習室として作業環境の「カイゼン」に取り組む(2学期末)	A: 実践された B: ある程度実践された C: あまり実践されなかった D: 実践されなかった	なし	実習室内を整理・整頓し、工具等は所定の場所へしまうなどした。	B	次年度も引き続き実習室の整理・整頓を行う。
3学年	スマートフォン等の使用に関するマナー向上	朝のSHR時および巡回の際の指導を通し、規範意識とマナーの向上を図ることができたか	規定違反者数(2学期末)	A: 20人以下 B: 21人～30人 C: 31人～40人 D: 41人以上	なし	規定違反者数は12人であった。	A	3年間A評価を得ていたが、今回はならなかった。規則・マナーに関した指導は、統一感を持ち粘り強く継続していく必要がある。
2学年	スマートフォン等の使用に関するマナー向上	朝のSHR時および巡回の際の指導を通し、規範意識とマナーの向上を図ることができたか	規定違反者数(2学期末)	A: 20人以下 B: 21人～30人 C: 31人～40人 D: 41人以上	なし	規定違反者数は11人と昨年度の約半分となった。	A	次年度も継続して指導に取り組み、スマートフォンを使用する際の規範意識とマナーの意識を継続させた。
1学年	スマートフォン等の使用に関するマナー向上	朝のSHR時および巡回の際の指導を通し、規範意識とマナーの向上を図ることができたか	規定違反者数(2学期末)	A: 20人以下 B: 21人～30人 C: 31人～40人 D: 41人以上	なし	規定違反者数は40人となった。	C	継続して指導に取り組み、スマートフォンを使用する際の規範意識とマナーの意識を継続させたい。

3 生徒の状況に応じた教育活動の充実

部・科・学年	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	結果	評価	次年度に向けての課題
学習指導部	生徒の状況に応じた学習指導の充実を図る。	生徒の実態に応じ、指導方法や指導体制を工夫しているか	個に応じた指導の充実を図っているか(教員へのアンケート調査、2学期末)	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	なし	肯定的な回答が、91.1%であった。学習指導の方法や体制の工夫が図られている。	A	年々、生徒の学力差や多様性が拡大しつつあるので、対処していく。
特活指導部	生徒が充実をする学校学校行事の運営	生徒の学校行事に対する充実度	充実した学校行事であったと感じた生徒の割合(アンケート調査)	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	なし	アンケート結果において充実度が非常に高かった。特に学校公開では充実したという回答が80%を超えた。	A	各先生や生徒からの改善意見を取り入れ、充実した生徒会活動とする。
生徒指導部	情報の提供と共有を図った生徒指導の充実	生徒の様子や指導の状況等の情報提供と共有を図った生徒指導を行っているか	情報の提供と共有を図っているか(教員へのアンケート調査、2学期末)	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	なし	情報の提供と共有を図った生徒指導を「行っている」とする回答が80%あった。	A	今後も情報共有を図りつつ、生徒の問題行動の未然防止や学校生活の充実につなげたい。
工業管理部	各科の協力による工業教育の充実	工業関係の各行事において、各科の連携度合い	教員対象のアンケート調査により評価(2学期末)	A: 70%以上 B: 50%以上 C: 30%以上 D: 30%未満	なし	工業科教員のほとんどが学科間の連携を図り、互いに協力できたと感じている。	A	さらに教員間で連携を図り、今後も協力体制を維持していきたい。
情報管理部	GIGAタブレットやMicrosoft TeamsなどICTを活用した教育活動の充実	職員研修や機器の取り扱い方	職員への研修回数(2学期末)	A: 3回以上 B: 2回 C: 1回 D: 0回	なし	採点システムや強化月間などICTを活用する場面が多く、時間も確保できなかったため、資料を配布して研修とすることが多かった。	B	研修という位置づけから個別対応などに切替える
機械科	生徒に関する情報を共有し、個別最適な学びを提示できる体制づくり	個別最適な指導をとおして、成長したと思われる生徒数	教員へのアンケート調査により評価(2学期末)	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	なし	教員側は個別最適な指導を実践してきたと考えているが、集団として見た時に、理想とする姿ではない実態があった。	B	生徒自身が互いを高められるような働きかけをしていきたい。
生産機械科	個別最適な学びの充実を目指した言語活動及び協働活動の推進	言語活動及び協働活動の実施状況	言語活動及び協働活動を実施できた教員の割合(教員へのアンケート調査、2学期末)	A: 70%以上 B: 50%以上 C: 30%以上 D: 30%未満	なし	100%の科の教員が授業・実習において言語活動及び協働活動を実施できた。	A	今後も生徒のコミュニケーション能力や社会的なスキルの育成を目指していきたい。
建設科	建設に関する特別授業の充実	高度な専門技術や知識を身に付けるための特別授業の実施状況	特別授業における生徒アンケートによる満足度の評価	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	なし	若年者育成事業やつなぐ化事業などに参加した生徒全員が満足していた。	A	今後もこのような事業を通して、生徒たちに高度な技術を体験させたい。
電子科	教育活動における協働と情報共有を密にする	情報共有	教員へのアンケート調査により評価(2学期末)	A: 情報共有がよくできた B: 情報共有ができた C: 情報共有がほぼできた D: 情報共有ができていない	なし	アンケートにおいて、Bの情報共有ができたという評価が多かった。	B	次年度も引き続き協働と情報共有を密にする
3学年	生徒の状況の把握及び充実した学校生活するための面談を実施	面談回数	各担任に面談の回数の確認(2学期末)	A: 各クラス3回以上実施 B: 各クラス2回以上実施 C: 各クラス1回以上実施 D: 実施していない	なし	各クラス3回以上の面談を実施し、生徒の学校生活のサポートを継続している。	A	生徒の進路状況に応じ、回数にこだわらず面談を実施し、進路実現につなげることができた。
2学年	生徒の状況の把握及び充実した学校生活するための面談を実施	面談回数	各担任に面談の回数の確認(2学期末)	A: 各クラス3回以上実施 B: 各クラス2回以上実施 C: 各クラス1回以上実施 D: 実施していない	なし	各クラス2回以上の面談を実施し、生徒の学校生活のサポートを継続している。	B	次年度は、進路の決定の年でもあり、適宜必要な時に面談を実施し、進路実現ができるようにサポートしていきたい。
1学年	生徒の状況の把握及び充実した学校生活するための面談を実施	面談回数	各担任に面談の回数の確認(2学期末)	A: 各クラス3回以上実施 B: 各クラス2回以上実施 C: 各クラス1回以上実施 D: 実施していない	なし	各クラス2回以上の面談を実施し、生徒の学校生活のサポートを継続している。	B	次年度も、適宜必要な時に面談を実施し、自己実現ができるようにサポートしていきたい。

4 地域と連携・協働した教育活動の推進

部・科・学年	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	結果	評価	次年度に向けての課題
学習指導部	地域と連携した教育活動の推進	地域と連携・協働したプロジェクトの実施	対象生徒へ活動終了後にアンケートの実施 (各事業終了後アンケート実施・学期末に集計)	A: 85%以上 B: 75%以上 C: 65%以上 D: 65%未満	なし	小学生や中学校への出前授業などアンケート調査により参加児童生徒において、積極的に取組み多く学ぶことができた。	A	市役所の方との打ち合わせをより密にし、今後も地域連携の活動を積極的に行いたい。
特活指導部	地域イベントへの参加	地域のイベントに生徒が積極的に参加	対象生徒へ活動終了後にアンケートの実施 (各事業終了後アンケート実施・学期末に集計)	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	なし	各科の研究部や生徒会、ボランティア部が地域のイベントに参加し、多くの生徒が意欲的に参加できたと回答し、地域貢献をした。	A	ボランティア活動の案内を積極的に行い、生徒会や部活動に所属していない生徒の参加を増やす。
健康安全指導部	地域イベントへの参加・協力(献血)	地域のイベントに生徒が積極的に参加・協力できたか(献血)	献血セミナーやボランティア活動等、啓発活動を行い、献血協力者80名を目指す。	A: 80名以上の協力を得た B: 目標の90%の協力をえた C: 80%以上の協力を得た D: 80%未満の協力にとどまった	なし	保健委員・生徒会役員・ボランティア部員・有志生徒の協力を得て啓発活動ができた。献血協力者も77名であった。	B	引き続きボランティア活動や地域貢献活動への参加機運を高めていきたい。
生徒指導部	地域におけるボランティア活動	真岡鐵道駅舎清掃活動の参加	活動終了後、参加生徒にアンケートを実施	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	なし	多くの参加生徒から意欲的に参加し、良い清掃活動ができたとの回答があった。	A	1学期終業式の日の実施であった事もあり、熱中症の生徒が出た。他校とも連絡を取り、時期の変更を進めたい。
進路指導部	地域と連携した進路学習	県内外の企業、学校等と連携し進路学習を行う	年間を通して、進路学習を実施した回数(2学期末)	A: 4回以上 B: 3回 C: 2回 D: 2回未満	なし	大学希望増によりベネッセによる進学説明会を行った。専門企業やハローワークと計画し、全体講話と希望別分科会など4回以上実施した。	A	本校は就職・進学希望者いるため、引き続き進路学習を継続していきたい。
工業管理部	地域ボランティア「真心工房」の推進	地域からの依頼を受け「真心工房」として活動	年間の依頼達成件数	A: 3回以上 B: 2回 C: 1回 D: 0回	なし	地域ボランティア活動として、真岡市と鹿島神社からの依頼を受けた。	B	次年度も工業高校の技術を活かしたボランティアに取り組みたい。

5 進路指導の充実

部・科・学年	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	結果	評価	次年度に向けての課題
生徒指導部	進路を見据えた生徒指導の実践	あいさつの励行や制服の着こなし指導、遅刻指導ができたか	指導を実践できた教員の割合(2学期末、教員へのアンケート調査)	A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	なし	指導が「よくできた」「概ねよくできた」の割合が80%を超えた。	A	進路を見据えた指導は行ったが、一部生徒への浸透は図れなかった。粘り強く指導したい。
進路指導部	生徒の希望企業・学校に合格させる	進路指導部職員が連携し・協力し、進路指導にあたる	3学年の第1志望の就職進学先に合格できた割合	A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	なし	第1志望に合格できた割合は、2学期末現在就職88%、進学100%(平均94%)だった。	B	就職・進学への興味関心を早い時期から持つように、ガイダンスや講話を積極的に行い、第1志望合格率を上げていきたい。
工業管理部	学科間連携により進路指導を充実させる	工業関連行事等での協力体制の状況	工業科職員へのアンケート調査(2学期末)	A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	なし	工業関連行事、特にさんフェアでは、教員間の連携が十分図られた。	A	今後も引き続き、教員間で連携して、生徒指導にあたりたい。
機械科	教員間の連携を充実させ、社会的自立に向けたキャリア教育にあたる	日常的教育活動における進路指導の連携・協力体制の状況	教員へのアンケート調査により評価(2学期末)	A: 70%以上 B: 50%以上 C: 30%以上 D: 30%未満	なし	生徒に関する情報を共有し、各教員が企業・学校の情報を収集し、生徒に合わせた進路指導ができた。	A	今後も各教員が進路指導に活かせる企業・学校の情報を収集し、それらを共有しながら、指導していきたい。
生産機械科	教員間の連携を充実させ、社会的自立に向けたキャリア教育にあたる	日常的教育活動における進路指導の連携・協力体制の状況	教員へのアンケート調査により評価(2学期末)	A: 70%以上 B: 50%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	なし	話しやすく明るい職場を推進し、生徒に関する情報の共有をしつつ進路指導にあたることができた。	A	各行事や日常の取組において、生徒に第一に考えた職員間の協力体制の維持を心掛けつつ、働き方改革

部・科・学年	努力点	評価項目	評価方法・時期	評価基準	中間の見直し	結果	評価	次年度に向けての課題
建設科	教員間で連携し、互いに協力して生徒の進路指導にあたる	建設科における行事や授業での連携と協力体制の状況	建設科の生徒が第1志望の進路先に合格できた割合	A: 100%	なし	進路指導で、教員間の連携が十分図られ、95%以上の生徒が第1志望に合格した。	B	今後も引き続き、教員間で連携して、進路指導にあたりたい。
				B: 95%以上				
				C: 90%以上				
				D: 90%未満				
電子科	教員で協働して進路指導にあたる	教育活動における協働体制の状況	第1志望の進路の内定率(2学期末)	A: 90%以上	なし	就職希望の第1志望の内定率83%であった。	C	企業とのマッチングや面接での対応での問題があるため進路指導をさらに強化する。
				B: 85%以上				
				C: 80%以上				
				D: 80%未満				
3学年	教員間の連携・情報共有を密にし、互いに協力して生徒の進路指導にあたる	連携・情報共有ができたか	教員へのアンケート調査により評価(2学期末)	A: 情報共有がよくできた	なし	年間を通して連携・情報共有を密に図ることができた。	A	進路については即時対応が必要な場合もあるため、常に支援体制がとれるように準備をしておく必要がある。
				B: 情報共有ができた				
				C: 情報共有がほぼできた				
				D: 情報共有ができていない				
2学年	今年度の進路状況を参考に、自己の進路について考えさせる	自己の進路について考えることができたか	生徒へのアンケート調査により評価(2学期末)	A: 95%以上	なし	アンケートの結果、90%の生徒が進路について考えていると答えた。	B	インターンシップのおかげか、多くの生徒が進路について真剣に考え始めている。次年度の進路実現に向け、進路指導部と連携しながら、準備を進めていきたい。
				B: 90%以上				
				C: 85%以上				
				D: 85%未満				
1学年	工業科の専門性について理解し、自分の進路について考えることができる	工業科の専門性について理解できたか 進路について考えることができたか	生徒へのアンケート調査により評価(2学期末)	A: 95%以上	なし	アンケートの結果、87.5%の生徒が進路について考えることができたと答えた。	C	進路指導部と連携しながら、進路ガイダンス等を通して、もっと進路について意識させていきたい。
				B: 90%以上				
				C: 85%以上				
				D: 85%未満				